

令和7年ホヤ類調査結果速報 No. 3

令和7年8月29日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

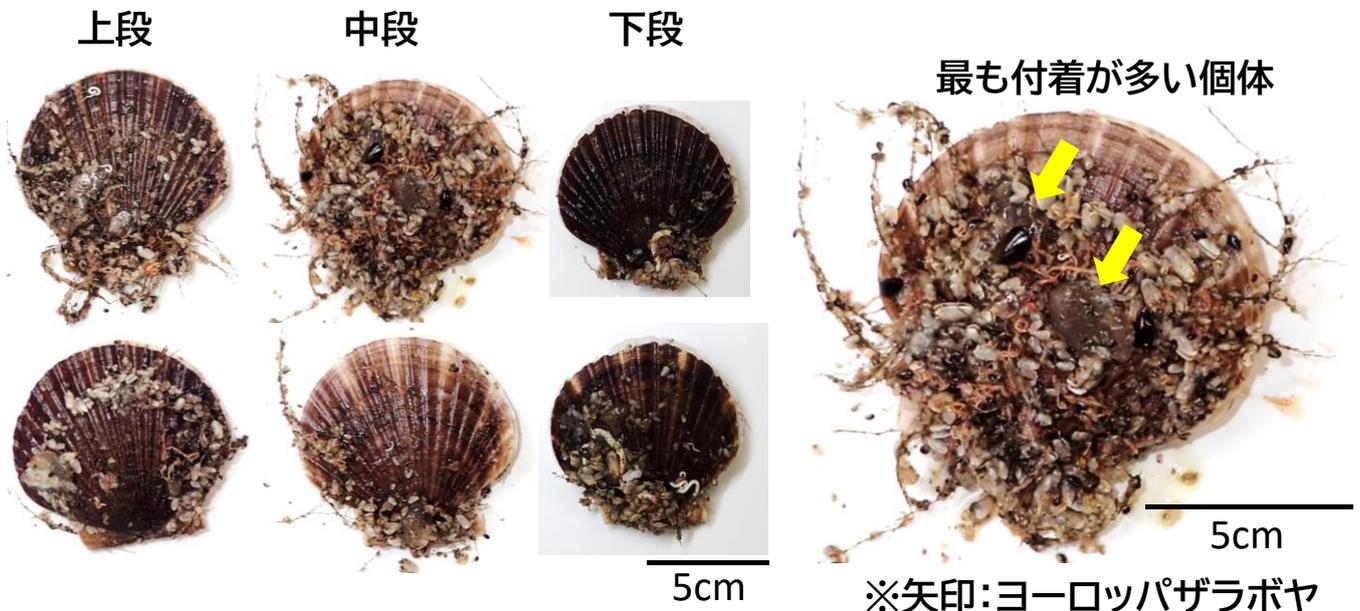
【アドレス：<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/hakodate/index.html>】

8月25日に渡島管内八雲町黒岩地区において、耳吊ホタテガイ付着物調査を行いました。また、8月20日に同町内浦地区沖合で海洋環境調査を実施しました。

結果概要

- ホヤの付着数は7月から増加したが、**過去最低水準**。
今年のホヤの付着量は低水準の見通しです。
- ホヤのサイズは5mm未滿の最近付着した個体が主体。
現在付着盛期とみられます。
- 10m以浅の水温は平年よりも高い。
貝洗いを始める場合は高水温に十分に注意してください。なお、深度10mよりも深い層の水温は、平年以下になっています。

写真 ホタテガイに付着したヨーロッパザラボヤ 令和7年8月25日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和7年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

耳吊りホタテ貝付着物調査

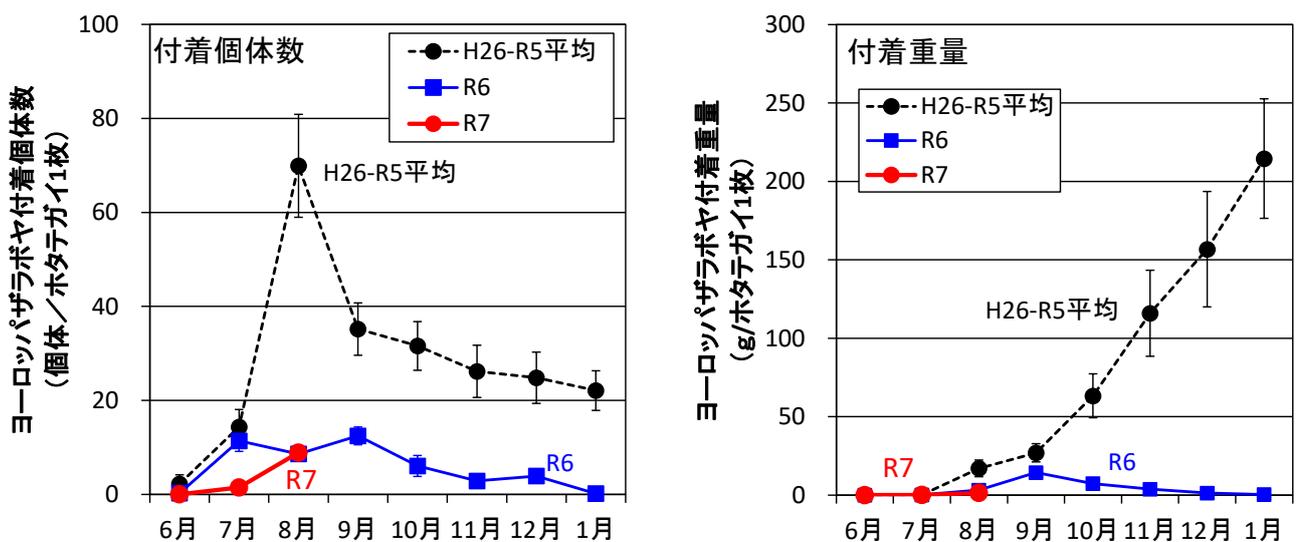
〔調査月日：8月25日、調査場所：八雲町黒岩沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました(写真)。ヨーロッパザラボヤの平均付着数はホタテガイ1枚あたり8.9個体であり、過去最低だった昨年(8.6個体)と同程度でした(表1、図1)。付着数は平年では8月にピークになりますので、今年の付着量は低水準の見通しです。なお、ヨーロッパザラボヤ以外の付着物としてはイガイ類とキヌマトイガイが主体でした(写真)。平均体長は8.3mmと平年(9.6mm)よりもやや小さいです(図2)。またサイズ組成は5mm未満が最も多く、最近付着した個体が大半とみられます。水温は5mよりも浅い層では25℃程度と高いですが、10mよりも深い層では平年以下になっています(図3)。R4、5年は9月中も高水温が続いたことから、今後貝洗いを開始する方は水温状況を確認しながら、慎重に作業を実施してください。

表1 付着生物調査結果(八雲町黒岩地区：令和7年8月25日)

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	12.9g	11.8g	6.3g	10.3g
ヨーロッパザラボヤ	1.8g	2.2g	0.2g	1.4g
その他	11.1g	9.6g	6.1g	8.9g
ヨーロッパザラボヤ個体数	10.4個体	9.8個体	6.4個体	8.9個体
令和6年8月(R5.8.28)の個体数	11.4個体	6.2個体	8.2個体	8.6個体
令和5年8月(R5.8.24)の個体数	33.6個体	35.6個体	21.0個体	38.9個体
令和4年8月(R4.8.25)の個体数	41.6個体	42.0個体	33.0個体	38.9個体

図1 ヨーロッパザラボヤの付着量の季節変化

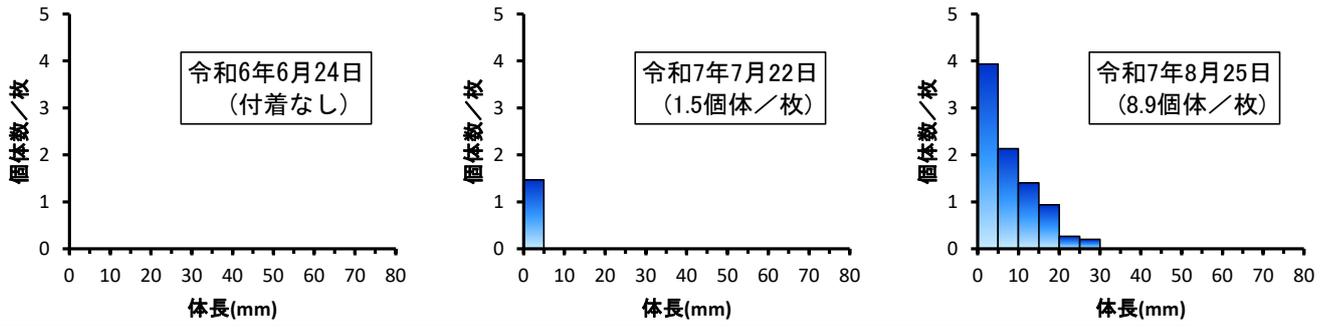


左：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

右：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層(上層、中層、下層)の平均値で示しています(縦棒は標準誤差)。

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲町黒岩地区：令和7年6～8月）



参考：昨年のヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲町内浦地区：令和6年6～8月）

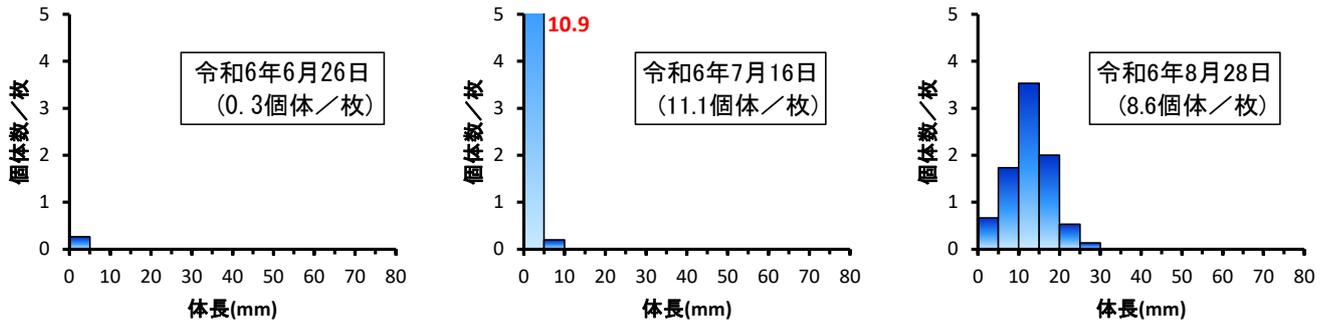


図3 調査地点近傍（八雲沖3マイル）の令和7年8月20日の水温鉛直分布

● : R7年8月20日、● : R6年8月28日、▲ : H26-R5年8月の平均値

